

在スロバキア日本国大使館
政治・経済月報（2016年2月）

目 次

内 政

- ◆政治家の信頼度調査 2
- ◆政党支持率調査結果 2

外 政

- ◆ライチャーク外相のウクライナ訪問 2
- ◆スロバキア・英国首相会談 3
- ◆ライチャーク外相のミュンヘン安全保障会議出席 3
- ◆プラハにおけるV4首相会合 3
- ◆プラハにおけるV4外相会合 3

社 会

- ◆スロバキアの教育に対するOECDの勧告 4

経 済

- ◆スロバキア電力会社の発電量割合 4
- ◆米企業によるVojany火力発電所への投資 4
- ◆スロバキア中央銀行月報（2月） 5

別添：主要経済指標

※本月報は公開情報を在スロバキア日本国大使館がとりまとめたものです。

内 政

◆政治家の信頼度調査（18日付スメ紙）

世論調査機関Focus社は、1月31日から2月7日にかけて約1000人の回答者を対象に、大統領、首相、国会議長等の主要政治家に関する信頼度調査を実施した。昨年10月には47%の回答者はフィツォ首相を信頼できると回答していたが、2月は35.2%にまで低下した。そのうち完全に信頼できると回答したのは14.4%であった。また、59.7%は信頼できないと回答している。与党Smer所属のペレグリニ国会議長も10月の36%から30.4%に低下した。逆に最も信頼を得ている政治家はキスカ大統領であり、62.7%となっている。

◆政党支持率調査結果（19日付スメ紙）

世論調査機関Focus、Polis及びMVKによる2月の政党支持率及び予想獲得議席数の調査によると、仮に2月に選挙が行われた場合、国会の議席を獲得するのは7政党である。MVKの調査では、SMKが支持率5%を越えて議席を獲得し、SaSは議席を獲得できない見込みとなっている。

政党	Focus	Polis	MVK
Smer（方向）	34.6%(62)	38.4%(67)	32.5%(58)
Siet（ネットワーク）	14.0%(25)	10.4%(18)	14.5%(26)
SNS（スロバキア国民党）	8.7%(15)	9.1%(16)	10.5%(19)
Most-Hid（架け橋）	8.2%(15)	9.2%(16)	7.0%(12)
KDH（キリスト教民主運動）	7.0%(12)	6.6%(12)	9.0%(17)
OLaNO-Nova（普通の人々・独立した人達-新たな多数派）	6.1%(11)	6.8%(12)	5.0%(9)
SaS（自由と連帯）	5.5%(10)	5.2%(9)	—
SMK（ハンガリー系コミュニティ党）	—	—	5.0%(9)

外 政

◆ライチャーク外相のウクライナ訪問（1-2日）

1日、ライチャーク外相はフロイスマン・ウクライナ最高会議議長及びヤツェニウク・ウクライナ首相と会談を行った。ライチャーク外相は、「我々はウクライナが、欧州の制度や規律を尊重し、政治的に安定し、経済的に繁栄した国になることを望んでいる」と述べた。2日にはポロシェンコ・ウクライナ大統領及びクリムキン・ウクライナ外相と個別に会談を行った。ライチャーク外相は、「ウクライナの出来事は、スロバキアにも直接影響があり、ウクライナの成功と安定はスロバキアの利益になる」と述べた。

◆スロバキア・英国首相会談（４日）

フィツォ首相は、ロンドンで開催されたシリア支援国会合出席に際し、キャメロン英首相と会談を行った。フィツォ首相はキャメロン首相に対し、欧州国境・沿岸警備隊の速やかな設置への支持を要請した。共同警備のプロセスの前進と警備隊の設置スケジュールの前倒しに関して、キャメロン首相が支援を約束したことを明らかにした。両首相は、ウクライナやスロバキアを迂回してロシアから欧州に天然ガスを供給する「ノルド・ストリーム２」プロジェクトについても議論した。現在、ドイツは同プロジェクトを民間企業による純粋な商業プロジェクトを見なしているが、スロバキアは政治的なプロジェクトであると主張している。

◆ライチャーク外相のミュンヘン安全保障会議出席（１２－１３日）

ライチャーク外相は、ミュンヘンで開催された安全保障会議に出席した。スロバキアが異議を唱えている「ノルド・ストリーム２」プロジェクトに関して、ドゥダ・ポーランド大統領及びポロシェンコ・ウクライナ大統領が会議において同プロジェクトを明らかに有害なものとして公然と批判したことを強調した。会議出席に際し、イヴァノフ・マケドニア大統領と会談を行い、バルカンルートでの移民流入について協議した。ジュカノビッチ・モンテネグロ首相とは、モンテネグロのEU加盟プロセスについて議論した。その他、東方パートナーシップ諸国の外相等とも会談を行った。

◆プラハにおけるV４首相会合（１５日）

フィツォ首相は、プラハで開催されたV４臨時首脳会合に出席した。V４各国の首相は、更なる移民の流入によってギリシャ・トルコ国境保護に失敗した場合の全欧州的なバックアップ計画について議論した。会合にはイヴァノフ・マケドニア大統領及びボリスフ・ブルガリア首相も出席した。フィツォ首相によると、ギリシャが失敗した場合には、ブルガリアとマケドニアの国境保護に関わるプランBの実施が必要となる。スロバキアはプランB実行に際して、両国に300名の警官を派遣する。

◆プラハにおけるV４外相会合（１８日）

ライチャーク外相は、プラハで開催されたV４外相会合に出席した。V４の外相は、シリア難民支援に関する共同プロジェクトの準備を提案した。ライチャーク外相は、「V４諸国は欧州の問題の要因となったことはなかった。逆に、常に解決への貢献に努めてきた」と強調した。同外相によると、移民問題への具体的支援に関する今回の提案は、連帯と建設的なアプローチを例示している。

会合では、欧州情勢やV4の今後の相互協力計画に関する議論も行われた。ライチャーク外相は、「V4設立に際しての目標は地域を民主化し統合することであった。今日、V4は活動的で成功したブランドとなっており、相互協力の調整と、協力の更なる分野への拡大に取り組んでいる」と述べた。

社 会

◆スロバキアの教育に対するOECDの勧告（20日付スメ紙）

スロバキアを訪問したOECD調査団は、学校数の削減、教員及び校長の給与引き上げ、幼稚園数の増加等の勧告を行った。スロバキアには教育の予算を増額する余地がある。GDPに占める教育の割合はOECD加盟国平均が3.5%であるのに対し、2.5%に留まっている。また、スロバキアの生徒数は10年で26%減少しているものの、学校数には大きな変化はない。1つの教室の生徒数はOECD平均21名に対して、約13名である。生徒数の減少は学校への補助金や教員給与に影響している。

経 済

◆スロバキア電力会社の発電量割合（8日付スメ紙）

スロバキア電力会社（SE）は2015年に国内の発電量の79.8%を占める1万9707ギガワット時（GWh）を発電した。その中で原子力発電がSEによる発電量全体の約77%を占めた。SEによると、モハウツェ原発の発電量は7523GWh、ヤスロウスケー・ボフニツェ原発は7623GWhであった。石炭・火力発電は昨年発電量全体の約11%、水力発電は約12%であった。また、バイオマス発電の割合が0.24%、太陽光発電が0.01%であった。

◆米企業によるVojany火力発電所への投資（26日付経済新聞）

米Theta Energy Group社（Theta）はスロバキア電力会社がスロバキア東部に保有するVojany火力発電所等への投資を行う。800名の新規雇用が見込まれ、大多数は発電所とその周辺での勤務となる見込みである。25日にフダーク経済相及びカジミール財務相は、Thetaとの覚書に署名した。カジミール財務相は、「Thetaは多くのサプライヤーを抱えるイノベーション企業である。その理念はVojany発電所をクリーンエネルギー生産のための発電所に変えることである」と述べた。同社は電力生産の分野に様々なイノベーションを導入している。例えば、発電のためにガスやバイオマス燃料を活用することで、二酸化炭素排出量の減少を目指している。

◆スロバキア中央銀行月報（2月）

1. GDP

2015年第4四半期のスロバキアの経済成長は前年同期比では過去5年で最大となる4.2%増に達した。2015年全体の経済成長率は、2014年の2.5%から3.6%に加速した。中銀によると、投資は2015年のGDP構造の主要因となる見込みである。EU基金活用の進展、国内建設生産の増加及び外国投資の伸びは投資の大幅な増加の継続を示している。EU基金は公共投資だけでなく一部部門における民間投資の増加及び公共部門の消費の増加に貢献し、全体として、EU基金は2015年のGDP成長の約3分の1を生み出したと見られる。民間消費に関しては、賃金及び雇用率上昇という条件の下での脆弱な物価動向の影響により、GDPに非常に前向きな影響をもたらしたと見られる。

2. 雇用率及び賃金

2015年第4四半期の雇用率は上昇基調を継続した。上昇率は第3四半期と類似しており、前期比0.4%、前年同期比で2%であった。雇用率は特にサービス部門が大きく、鉱工業及び商業部門がそれに続いた。登録ベースでの失業率は1月も前向きな動きを示し、季節調整前で前月比0.24%低下して10.39%となった。2015年12月の平均賃金は前年同期比で3.7%と11月の4.7%から鈍化した。12月の平均名目賃金の確定値は935.2ユーロに達した。賃金は、特に建設部門（10.9%）、運輸部門（7.7%）及び小売部門（5.7%）において上昇した。

3. 物価

1月の消費者物価指数は、前年同期比で-0.6%、前月比で-0.3%であった。主に食品価格が大幅に下落し、サービス価格はわずかな上昇に留まった。食品価格の下落は、一部の食料品に対する付加価値税の軽減税率導入と原材料の低価格によるものと見られる。短期的には、2月の前年同期比での下落は-0.5%に達する見込みである。1月の動向に基づくと、エネルギー価格及び食料品価格も年間を通じてマイナス基調を示すと予測される。

4. 貿易

速報値によると12月の輸出は前年同期比で8.4%増、輸入は7.6%増加した。12月の貿易赤字は1億4700万ユーロであった。

（了）

スロバキア主要経済指標

(出典:スロバキア統計局)

